

——〈シリーズ「次代を担う学生にリポート」〉——



伊勢 晋太郎さん

(長野県出身)

筑波大学大学院システム情報工学研究科
社会システム工学専攻博士前期課程

新潟大学経済学部を卒業した後、社会工学の門戸をたたく。『持続可能性指標の継続実態に関する研究』と題した論文を世に出し、先ごろ和歌山大学で開催された土木学会の環境システム研究発表会で見事、優秀学生発表賞に輝く。

社会の持続可能性を高めるためには適切な評価指標を継続して活用していくことが欠かせないと考え、先生の支援を受けながら先進6カ国の取り組みを分析・考察した。将来的には「土木分野に活用できればいいですね」との構想も抱く。

筑波の地で学んできた約1年7カ月を振り返り、こう実感している。「1人でもできる経済理論に対し、土木分野は基本的に1人ではほとんど無理です」

ここでの授業は5～6人のグループワーク（GW）が多い。他分野の視点が求められ、培ってきたものを生かしながら臨んできた。どんなプロジェクトも進める場合はさまざまな人が携わることから、GWでの経験は相当プラスになっているようだ。

あまりにも暮らしに密着しているためか、土木構造物などの社会資本に対する世間の評判は「あって当然だ」と、決して高くない。「（それを）失った時に初めて必要性・重要性に気付くはずです。幼少のころから正しい情報を伝えていけば、その重要性が失われることはありません。とにかく早いうちから「知ること、かかわること」が大切ではないでしょうか」。

1人ではほぼ無理の土木分野